

地域社会学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3110	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、グローバル化をめぐるさまざまな動向を取り上げ、それらを捉えるための手がかりについて解説を加えるとともに、社会の多文化化が生み出す諸問題について考察する。また、地域社会の多文化化に関する論考を取り上げ、輪読を行う。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に論じることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み姿勢(報告と討論への参加) : 40%		1/2
2	期末レポート : 60%		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. グローバル化とは何か：国境を超えた現象をとらえる</li> <li>3. 輪読(総論 社会の脆弱性を乗り越えるために)</li> <li>4. 国境を超える人の移動</li> <li>5. 輪読(第1章 二回目の危機)</li> <li>6. 国際移動とジェンダー</li> <li>7. 輪読(第2章 コロナ以前/以降の重層的困難と連帯の可能性)</li> <li>8. 国際移動をめぐる課題</li> <li>9. 輪読(第3章 「学べない、働けない、帰れない」)</li> <li>10. 「国民」とは誰か</li> <li>11. 輪読(第4章 運用と裁量に委ねられた人生)</li> <li>12. 日本社会と移民</li> <li>13. 輪読(第5章 社会的危機と差別)</li> <li>14. 日本の労働市場と外国人労働者</li> <li>15. 輪読(第6章 雇用は守られているか)</li> </ol>			

<b>定期試験</b> 第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> manaba folioに模範解答を掲載する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理すること（毎回2時間程度）。 （復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <必携書> 鈴木江理子編著『アンダーコロナの移民たち-日本社会の脆弱性があらわれた場所-』明石書店、2021年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

地域社会学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3115	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	二階堂 裕子		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、地域社会における異質な他者を理解するための方法論を取り上げ、その実践例と成果について解説を加える。また、方法論のなかでも特にライフストーリーの手法に注目し、輪読を通して、異文化理解のうえでそれがどのような強みを持っているのかを考察する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	日本の地域社会が直面している諸課題を、多面的かつ相対的に論じることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み姿勢(報告と討論への参加) : 40%		1/2
2	期末レポート : 60%		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 質的調査の考え方</li> <li>3. 輪読(第1章 ミニドカを語り継ぐ)</li> <li>4. フィールドワーク</li> <li>5. 輪読(第2章 原爆の記憶を継承する)</li> <li>6. 参与観察</li> <li>7. 輪読(第3章 ある医師にとっての「薬害HIV」)</li> <li>8. インタビュー</li> <li>9. 輪読(第4章 「薬害HIV」問題のマスター・ナラティブとユニークな物語)</li> <li>10. ワークショップ</li> <li>11. 輪読(第5章 「生活者」としての経験の力)</li> <li>12. ライフストーリー分析</li> <li>13. 輪読(第6章 記憶の保存としてのハンセン病資料館)</li> <li>14. ドキュメント分析</li> <li>15. 輪読(第7章 死の臨床における世代継承性の問題)</li> </ol>			

<b>定期試験</b> 第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> manaba folioに模範解答を掲載する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理すること（毎回2時間程度）。 （復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <必携書> 桜井厚・山田富秋・藤井泰編『過去を忘れない-語り継ぐ経験の社会学-』せりか書房、2008年 参考文献や資料などは授業中に適宜紹介する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

家族社会学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3120	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
家族社会学が取り組んできた領域やテーマを広くとりあげ、家族社会学の理論を説明する 家族社会学の分析視角について解説するとともに、今日的課題について考察する 並行して古典的文献をいくつか取り上げ輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)
1	家族研究の分析視角を理解し、使えるようになる	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	家族に関する古典的文献を読むことにより、家族研究の潮流を理解し、説明することができる	知識・技能/思考・判断・表現力	
3	今日的な課題への取り組みを明らかにしてその成果を問うことができる	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み 30%	1/2/3	
2	中間報告 20%	1/2/3	
3	課題・レポート 25%	1/2/3	
4	最終報告 25%	1/2/3	
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回 講義概要 オリエンテーション			
第2回 家族社会学の分析視角			
第3回 輪読①ラドクリフ・ブラウン『未開社会における構造と機能』			
第4回 歴史社会学的アプローチ			
第5回 人口学的アプローチ			
第6回 ジェンダー研究的アプローチ			
第7回 エスノメソドロジック的アプローチ			
第8回 輪読② マリノウスキー『性・家族・社会』			
第9回 構造機能論的アプローチ			
第10回 家族ストレス論的アプローチ			
第11回 相互作用論的アプローチ			
第12回 交換論的アプローチ			
第13回 輪読③ マードック『社会構造』			
第14回 ライフコース論的アプローチ			
第15回 ネットワーク論的アプローチ			

定期試験 口述試験を行う
試験のフィードバックの方法 複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 参考図書：野々山久也・清水浩昭編 2001、『家族社会学の分析視角』、ミネルヴァ書房.
オフィスアワー 授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先 miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

家族社会学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3125	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	山下 美紀		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
この授業では、家族社会学の研究成果を解説したうえで、現代の家族についての理解を深めるとくに日本の家族を対象に、家族社会学の幅の広さについて具体的事例を取り上げながら説明する家族にかかわる基本的文献および今日的課題に関する文献を随時紹介し、家族社会学の研究の可能性に言及する			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	家族社会学研究の基本を理解する	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	現代の家族現象を社会環境との関連において説明できるようになる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	家族研究に関するさらなる理論的展開の可能性を論じることができるようになる	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業および討論への取り組み 30%	1/2/3	
2	課題・レポート 30%	1/2/3	
3	最終レポート 40%	1/2/3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回 講義概要 家族社会学研究の基本			
第 2 回 日本の家族変動			
第 3 回 恋愛と結婚			
第 4 回 子育てにみる家族主義の限界			
第 5 回 討論① 第 2 回～第 4 回をふまえて			
第 6 回 介護の「再家族化」			
第 7 回 家族階層と教育機会			
第 8 回 生活の共同性と家族主義			
第 9 回 討論② 第 6 回～第 8 回をふまえて			
第 10 回 「お金」と「愛情」の間			
第 11 回 セクシュアル・マイノリティの家族			
第 12 回 成人子と親との関係			
第 13 回 討論③ 第 10 回～第 12 回をふまえて			
第 14 回 家族と政治・法律			
第 15 回 討論④・まとめ			

定期試験
口述試験
試験のフィードバックの方法
複数回の課題レポートについて、コメントを付して返却する 口述試験について、必要な助言を与える
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
講義内容に関わる資料や文献をその都度紹介する。次回の講義時までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 講義修了後は、授業内容や討論から得た知見を参考に、家族研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
参考図書：永田夏来・松木洋人編 2017、『入門家族社会学』新泉社.
オフィスアワー
授業中に指示する 随時、メールで質問を受け付ける
連絡先
miki@m.ndsu.ac.jp
留意事項



社会集団・組織論特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3130	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
<p>本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。代表的な理論として、前半では Olson の集合行為論、後半では Zald、McCarthy、McAdam による資源動員論をとりあげ、文献の講読を行う。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解する。		知識・技能
2	さまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な技法、及び思考・判断力を修得する。		思考・判断・表現力
3	自らが関心をもつ組織事例に、理論・技法をあてはめて考えることができる		主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レジュメ作成と発表、討議 (50%)		1/2
2	期末レポート (50%)		2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回 序論—目的合理的行為 第 2 回 集団・組織形成の前提 第 3 回 公共選択アプローチ 第 4 回 集合財とフリーライダー問題 第 5 回 選択的誘因と集団規模、政治的企業家 第 6 回 利益集団論へのインパクト 第 7 回 オルソン批判と現代政治 第 8 回 事例・実験による検証 第 9 回 集合行為問題と民主政治 (1) 経済発展 第 10 回 集合行為問題と民主政治 (2) 国家論 第 11 回 組織の維持・存続 第 12 回 離脱・発言・忠誠 第 13 回 組織間関係論 (1) 第 14 回 組織間関係論 (2) 社会学的組織連関論 第 15 回 公共選択アプローチの意義と限界			

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法 Google Classroomを用いて行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること（各回3時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先 hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会集団・組織論特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3135	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
<p>本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための専門的な視座や技法を修得することにある。授業では、社会集団・組織論(社会学)における代表的な理論として動員論(資源動員論を核としてフレーミング論や政治的機会構造論などを組み合わせた理論体系)をとりあげ、その他の研究パラダイムと比較検討しつつ、方法論の特徴や背景、可能性、限界等について説明し、その修正策やオルタナティブについて議論する。比較検討するしていく。適宜、関連する歴史社会学/社会史的研究(Durkheim、Weber、Friedman、Touraine、Tilly 他)も紹介する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解する		知識・技能
2	さまざまな社会組織(特にその現代的意義と当事者にとっての意味)を分析するための専門的な技法、及び思考・判断力を修得する		思考・判断・表現力
3	自らが関心をもつ組織事例に、理論・技法をあてはめて考えることができる		主体性
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レジュメ作成と発表、討議(50%)		1/2
2	期末レポート(50%)		2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回 資源動員論の位置 (1) 集合行動論との関係 第 2 回 資源動員論の位置 (2) 資源動員論の意義 第 3 回 動員論の理論的展開 (1) 合理的理論 第 4 回 動員論の理論的展開 (2) 崩壊から連帯へ 第 5 回 動員論の理論的展開 (3) 功利主義的理論 第 6 回 動員論の実証 (1) ジェンダー 第 7 回 動員論の実証 (2) エスニシティ 第 8 回 動員論の実証 (3) 環境問題 第 9 回 動員論の課題 (1) 合理性問題 第 10 回 動員論の課題 (2) ミクロとマクロ 第 11 回 動員論の課題 (3) 実証可能性 第 12 回 動員論の課題 (4) 労働論 第 13 回 動員論の課題 (5) NSM 論 第 14 回 国際的研究の現状 (1) 理論の分裂 第 15 回 国際的研究の将来 (2) 組織から集団へ			

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法 Google Classroomを用いて行う
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 課題の論文・テキストについて事前に読み、発表に備えること（各回3時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。 オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。
連絡先 hamanishi@post.ndsu.ac.jp
留意事項

社会心理学特論I		単位数		2単位	
授業コード	M3140	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	土井 隆義				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	社会学				
本授業の概要					
<p>社会的格差の拡大や失業率の高さなど、現代青年期をとりまく社会状況は非常に厳しい状況にあります。しかし、その一方で彼らの生活満足度は高く、また幸福感も強まる傾向が見られます。この両者のギャップはどのように理解すればよいのでしょうか。この授業では、その社会心理学的な解明を試みます。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	現代日本の青年層に特徴的に見受けられる意識の特徴と、そこから派生する諸問題の社会心理的側面について、後期近代という社会背景から理解することを目指します。		思考・判断・表現力		
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートで評価します。		1		
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回 プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか～ 第 2 回 青年期の社会的格差(1)～劣化する経済的基盤～ 第 3 回 青年期の社会的格差(2)～社会制度と格差化～ 第 4 回 流動化する現代社会(1)～青年期の幸福と不安～ 第 5 回 流動化する現代社会(2)～人間関係の規制緩和～ 第 6 回 リスク化する人間関係(1)～アノミー化する人間関係～ 第 7 回 リスク化する人間関係(2)～人間関係の新たなジレンマ～ 第 8 回 ポスト近代化の時代(1)～成長社会から成熟社会へ～ 第 9 回 ポスト近代化の時代(2)～フラット化する世界～ 第 10 回 変貌する承認の構図(1)～世代間格差の変容～ 第 11 回 変貌する承認の構図(2)～自由から承認へ～ 第 12 回 青年期の新たな心性(1)～生活圏の内閉化～ 第 13 回 青年期の新たな心性(2)～新しい幸福観の勃興～ 第 14 回 反転する時代精神(1)～生活圏の分断化～ 第 15 回 反転する時代精神(2)～新しい人間観の陥穽～					

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 オンデマンドで配信する90分程度の動画を前もって視聴し、授業でのディスカッションに備えておくこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介します。
オフィスアワー 授業終了後に質問を受け付けます。
連絡先 doi.takayoshi.gb@u.tsukuba.ac.jp
留意事項 授業中はぜひ積極的に議論に参加し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。

宗教社会学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3150	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
宗教社会学の古典的文献を学習し、社会文化に関する洞察を得るとともに、現代宗教にかんする実証的研究と対比させながら、その現代的意義を確認する。マックス・ヴェーバー、エミール・デュルケームを中心にとりあげる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心(近代化と世俗化)を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。		知識・技能
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。		思考・判断・表現力
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レポート(60%)および授業への取り組み姿勢(40%) 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論の内容で評価す		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. 「緒言」</li> <li>3. 「プロテスタNティズムの倫理と資本主義の精神 I 問題」</li> <li>4. 「プロテスタNティズムの倫理と資本主義の精神 II 禁欲主義的プロテスタNティズムの天職倫理」</li> <li>5. 「プロテスタNト諸信団と資本主義の精神」</li> <li>6. Parsons, T. 1966 "Introduction" in Max Weber, The Sociology of Religion. Beacon Press</li> <li>7. ヴェーバー「世界宗教の経済倫理 序論」『宗教社会学論選』</li> <li>8. 「苦難の神義論と災禍をめぐる記念行事」『宗教と社会』24: 65-80</li> <li>9. 「序論」</li> <li>10. 「第一部 前提問題」</li> <li>11. 「第二部 基本的信念」</li> <li>12. 「第三部 主要な儀礼的態度」</li> <li>13. ウォーナー, W. L. 「アメリカの神聖な儀式の象徴的分析」『アメリカ人の生活構造』</li> <li>14. 岡崎宏樹「社会学と哲学」『日仏社会学年報』26: 69-90</li> <li>15. 振り返りと総括</li> </ol>			

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業に先立ち、とりあげる研究を事前に講読したうえで、レジュメを作成する。120分。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 『マックス・ヴェーバー 宗教社会学論集 第1巻上』（北海道大学出版会、2019年）2. ～ 5. デュルケーム『宗教生活の基本形態 上・下』（ちくま学芸文庫、2014年）9. ～12
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項



宗教社会学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3155	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	福田 雄		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
宗教社会学の古典的文献の背景にある方法論を学習し、当時の文脈における問題関心に照らし合わせながら批判的検討を行う。さらに現代社会を分析するにあたっての展開の可能性を検討する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	宗教社会学の古典的研究における問題関心とその方法論を理解し、その限界と可能性を吟味することができる。		知識・技能
2	上記の課題を踏まえたうえで、現代社会に応用することができる。		思考・判断・表現力
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	レポート(60%)および授業への取り組み姿勢(40%) 前者は、古典文献の読解と要約を課す。後者は現代社会への展開可能性についての議論の内容を評価す		1/2
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. 友枝敏雄「社会学の方法」『社会学の力』</li> <li>3. 菊谷和宏「トクヴィルとデュルケム」『社会学評論』49(2): 172-187</li> <li>4. 山崎亮「『宗教生活の基本形態』の宗教学的読解」『デュルケム宗教学思想の研究』</li> <li>5. 『社会学的方法の基準』</li> <li>6. 盛山和夫「社会的事実とは何か」『社会学的方法的立場』</li> <li>7. 厚東洋輔「デュルケムと道徳の「実証科学」」『〈社会的なもの〉の歴史』</li> <li>8. 『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』</li> <li>9. 『仕事としての学問 仕事としての政治』</li> <li>10. マイヤー「歴史の理論と方法」『歴史は科学か』</li> <li>11. ヴェーバー「文化科学の論理学の領域における批判的研究」『歴史は科学か』</li> <li>12. 佐藤俊樹「社会科学とは何か」『社会科学と因果分析』</li> <li>13. 盛山和夫「理念型という方法」『社会学的方法的立場』</li> <li>14. 厚東洋輔「ヴェーバーと合理主義の社会学」『〈社会的なもの〉の歴史』</li> <li>15. 振り返りと総括</li> </ol>			

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 授業に先立ち、とりあげる研究を事前に講読したうえで、レジュメを作成する。120分。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） デュルケーム『社会学的方法の基準』（講談社学術文庫、2018年）5. ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）8. ヴェーバー『仕事としての学問 仕事としての政治』（講談社学術文庫、2018年）9. 盛山和夫『社会学的方法的立場』（東京大学出版会、2013年）6.13. 厚東洋輔『〈社会的なもの〉の歴史』（東京大学出版会、2020年）7.14
オフィスアワー 水曜2限
連絡先 u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
留意事項

社会学演習I		【単位数】		2単位	
授業コード	M3210	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	山下 美紀				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	社会学				
本授業の概要					
本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	到達目標1：社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	到達目標2：先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	到達目標3：必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	発表および討論への取り組み 30%			1/2/3	
2	中間報告 20%			1/2/3	
3	課題・レポート 25%			1/2/3	
4	最終報告 25%			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回 社会学における学術研究について					
第2回 研究課題(仮)の設定					
第3回 先行研究：文献の収集					
第4回 先行研究：批判的検討					
第5回 先行研究：今後の課題					
第6回 研究課題の設定					
第7回 研究の方法					
第8回 調査・分析の方法					
第9回 調査の実施に向けて：計画を立てる					
第10回 調査の実施について					
第11回 調査データの整理					
第12回 調査データの分析					
第13回 分析結果の考察					
第14回 分析結果の考察：先行研究との関係					
第15回 研究論文の構成、執筆について					
定期試験 なし					

<b>定期試験</b> 複数の課題レポートの提出を求める
<b>試験のフィードバックの方法</b> 提出されたレポートについて、毎回コメントを付して返却する
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にすべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業中に指示する 随時メールで質問を受け付ける
<b>連絡先</b> miki@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習II			単位数	2単位
授業コード	M3215	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	山下 美紀			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	到達目標1：設定した課題について、適切な調査を行うことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	到達目標2：調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	到達目標3：研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	議論への参加 20%		1/2/3	
2	発表 30%		1/2/3	
3	研究論文 50%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 社会学における学術研究について				
第2回 研究課題の設定				
第3回 研究方法・調査論について				
第4回 研究論文の構成とルール				
第5回 調査の実施計画				
第6回 調査の実施について				
第7回 調査結果の報告：全体状況				
第8回 調査結果の報告：フィールド等				
第9回 調査結果の報告とコメント				
第10回 調査成果の整理				
第11回 調査成果の整理と考察				
第12回 研究論文の執筆：概要				
第13回 研究論文の執筆：前半				
第14回 研究論文の執筆：後半				
第15回 まとめ				
定期試験 なし				

<b>定期試験</b> 複数の課題レポートの提出を求める
<b>試験のフィードバックの方法</b> 提出されたレポートについて、毎回コメントを付して返却する
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にすべき資料や文献をその都度紹介する。次回の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度） 演習後は、報告・討論から得た知見やアドバイスを参考に、研究を進めていくうえで必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業中に指示する 随時メールで質問を受け付ける
<b>連絡先</b> miki@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習I		【単位数】		2単位	
授業コード	M3217	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	二階堂 裕子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	社会学				
本授業の概要					
本授業では、受講者が選んだ研究課題に取り組むために必要な研究方法と調査の手法・過程について具体的に学ぶ。社会学に関連するテーマを扱い、研究課題を選び、関連する先行研究を理解し、研究課題に沿って調査研究の方法と考え方を読解する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	議論への参加：20%			1/2	
2	発表：30%			1/2	
3	研究論文：50%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：社会学における学術研究について					
第2回：研究課題(仮)の設定					
第3回：先行研究：文献の収集					
第4回：先行研究：批判的検討					
第5回：先行研究：今後の課題					
第6回：研究課題の設定					
第7回：研究の方法					
第8回：調査・分析の方法					
第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる					
第10回：調査の実施について					
第11回：調査データの整理					
第12回：調査データの分析					
第13回：分析結果の考察					
第14回：分析結果の考察：先行研究との関係					
第15回：研究論文の構成、執筆について					

<b>定期試験</b> 第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> manaba folioに模範解答を掲載する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理すること（毎回2時間程度）。 （復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。 その他、適宜資料を提示するほか、参考書なども紹介する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>



社会学演習II			【単位数】	2単位
授業コード	M3218	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	二階堂 裕子			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	設定した課題について、適切な調査を行うことができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	議論への参加：20%		1/2	
2	発表：30%		1/2	
3	研究論文：50%		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：社会学における学術研究について				
第2回：研究課題の設定				
第3回：研究方法・調査論について				
第4回：研究論文の構成とルール				
第5回：調査の実施計画				
第6回：調査の実施について				
第7回：調査結果の報告：全体状況				
第8回：調査結果の報告：フィールド等				
第9回：調査結果の報告とコメント				
第10回：調査成果の整理				
第11回：調査成果の整理と考察				
第12回：研究論文の執筆：概要				
第13回：研究論文の執筆：前半				
第14回：研究論文の執筆：後半				
第15回：まとめ				

<b>定期試験</b> 第15回の授業終了後、期日までにメールにてレポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> manaba folioに模範解答を掲載する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> （予習）文献の読解や既存のデータなどの分析を行い、これらから得た知見を自分で整理すること（毎回2時間程度）。 （復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、文献や新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。 その他、適宜資料を提示するほか、参考書なども紹介する。
<b>オフィスアワー</b> 質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
<b>連絡先</b> nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習I		【単位数】		2単位
授業コード	M3220	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。			主体性
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。			知識・技能
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			思考・判断・表現力
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)			3
2	発表 (30%)			2/3
3	研究論文 (50%)			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日の昼休み等。Zoom等での相談にも応じる。
<b>連絡先</b> hamanishi@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3225	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	濱西 栄司		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	3 実験・実習・実技		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会学		
本授業の概要			
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。			
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。		主体性
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。		知識・技能
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。		思考・判断・表現力
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)		3
2	発表 (30%)		2/3
3	研究論文 (50%)		1/2/3
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて			

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 金曜日の昼休み等。Zoom等での相談にも応じる。
<b>連絡先</b> hamanishi@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習I		【単位数】		2単位	
授業コード	M3230	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	森 泰三				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技				
担当形態	クラス分け				
研究分野(大学院)	社会学				
本授業の概要					
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	社会学研究の課題設定を適切に行うことができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	先行研究を的確に理解し、批判的に読解することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	必要な方法論を理解し、調査研究を実践することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	議論への参加 (20%)			1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)			1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)			1 / 2 / 3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：社会学における学術研究について					
第2回：研究課題(仮)の設定					
第3回：先行研究：文献の収集					
第4回：先行研究：批判的検討					
第5回：先行研究：今後の課題					
第6回：研究課題の設定					
第7回：研究の方法					
第8回：調査・分析の方法					
第9回：調査の実施に向けて：計画を立てる					
第10回：調査の実施について					
第11回：調査データの整理					
第12回：調査データの分析					
第13回：分析結果の考察					
第14回：分析結果の考察：先行研究との関係					
第15回：研究論文の構成、執筆について					

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこない、それらの入手や解説・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 木曜日 3時限
<b>連絡先</b> tmori@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>



社会学演習II		【単位数】		2単位
授業コード	M3232	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	森 泰三			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、各自の研究課題に沿った調査・分析方法について理解し、実際に調査から得られたデータ・資料について分析と考察を行う。そのうえで、研究成果のオリジナリティを客観的に判断しつつ、研究論文の構成、執筆を行っていく。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)
1	設定した課題について、適切な調査を行うことができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
2	調査データを適切な方法で分析し、結果をまとめることができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
3	研究成果のオリジナリティを客観的に判断し、発表・論文作成ができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	議論への参加 (20%)			1 / 2 / 3
2	発表 (30%)			1 / 2 / 3
3	研究論文 (50%)			1 / 2 / 3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：社会学における学術研究について				
第2回：研究課題の設定				
第3回：研究方法・調査論について				
第4回：研究論文の構成とルール				
第5回：調査の実施計画				
第6回：調査の実施について				
第7回：調査結果の報告：全体状況				
第8回：調査結果の報告：フィールド等				
第9回：調査結果の報告とコメント				
第10回：調査成果の整理				
第11回：調査成果の整理と考察				
第12回：研究論文の執筆：概要				
第13回：研究論文の執筆：前半				
第14回：研究論文の執筆：後半				
第15回：まとめ				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 火曜日 4時限
<b>連絡先</b> tmori@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習I		【単位数】		2単位
授業コード	M3240	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	福田 雄			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、受講者が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた社会学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会学的な研究テーマの設定を適切に行うことができる。		主体性	
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。		知識・技能	
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。		思考・判断・表現力	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加(20%)		3	
2	発表(30%)		2/3	
3	研究論文(50%)		1/2/3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：研究論文とは何か				
第2回：先行研究：文献の収集				
第3回：先行研究：批判的に読む				
第4回：先行研究：不足点と今後の課題				
第5回：研究テーマの設定				
第6回：研究方針の確定				
第7回：調査・分析の方法				
第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる				
第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう				
第10回：史資料調査の実践				
第11回：史資料調査のまとめ				
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析				
第13回：自身の研究が解決すべき課題				
第14回：研究発表と討論				
第15回：研究論文の作成に向けて				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配布する。
<b>オフィスアワー</b> 水曜2限
<b>連絡先</b> u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会学演習II		【単位数】		2単位
授業コード	M3242	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	福田 雄			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会学			
本授業の概要				
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。			主体性
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。			知識・技能
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			思考・判断・表現力
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加(20%)			3
2	発表(30%)			2/3
3	研究論文(50%)			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配布する。
<b>オフィスアワー</b> 水曜2限
<b>連絡先</b> u_fukuda@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

日本社会史特論I		単位数		2単位	
授業コード	M3310	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	久野 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	社会史				
本授業の概要					
本授業では、明治期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の近代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)		
1	日本社会の近代化の特徴を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力		
2	歴史学における地域史研究の意義を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性		
3					
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	授業への取り組み度(出席・発言・発表)と課題レポート等により、総合的に評価する。		1/2		
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. さまざまな明治維新</li> <li>3. 身分制の解体</li> <li>4. 文明開化と民衆宗教</li> <li>5. 徴兵令と血税一揆</li> <li>6. 自由民権運動と岡山地域</li> <li>7. 地方名望家と殖産興業</li> <li>8. 地方名望家と地方行政</li> <li>9. 地方名望家と明治地方自治制</li> <li>10. 議会制の導入と社会変容</li> <li>11. 災害と地域社会</li> <li>12. 日清・日露戦争と岡山地域</li> <li>13. 地域資料からみえる帝国日本①</li> <li>14. 地域資料からみえる帝国日本②</li> <li>15. 総括と展望</li> </ol>					

<b>定期試験</b> 授業中に指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 授業中に指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 参考文献を適宜紹介するので、各回の授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業中に指示する。
<b>連絡先</b> hisano@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 一部、演習形式も取り入れる。



日本社会史特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3315	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	久野 洋		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
本授業では、大正・昭和戦前期日本の地域社会の動向に視点を据えて、日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を考える。その際、岡山地域を具体的なフィールドに設定して考察を進める。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本社会の大衆社会化・現代化の特徴を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	歴史学における地域史研究の意義を説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度(出席・発言・発表)と課題レポート等により、総合的に評価する。	1/2	
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODクシヨN</li> <li>2. 都市化と都市住民</li> <li>3. 都市問題と都市騒擾</li> <li>4. 都市民衆騒擾と岡山地域</li> <li>5. 第一次世界大戦のインパクト</li> <li>6. 米騒動と岡山地域</li> <li>7. 労働・農民運動と岡山地域</li> <li>8. 名望家秩序の変貌</li> <li>9. 普選体制への転換</li> <li>10. 恐慌の時代</li> <li>11. 経済更生運動と農村の組織化</li> <li>12. 国防婦人会の成立と展開</li> <li>13. 総力戦体制と国民再組織</li> <li>14. 戦中・戦後の都市住民</li> <li>15. 総括と展望</li> </ol>			

<b>定期試験</b> 授業中に指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 授業中に指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 参考文献を適宜紹介するので、各回の授業内容に関連する文献を収集し、読み進めておくこと（毎回2時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 授業中に適宜指示する。
<b>オフィスアワー</b> 授業中に指示する。
<b>連絡先</b> hisano@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 一部、演習形式も取り入れる。

アジア社会史特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3330	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
前近代中国における儒学・科挙・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)
1	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科挙・宗族の概念を用いて説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%, 課題レポート 50%		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回：講義概要			
第 2 回：儒教とは何か			
第 3 回：五経と四書			
第 4 回：中国史における官僚			
第 5 回：官僚登用制度の変遷①（漢）			
第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晉）			
第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝）			
第 8 回：科挙の導入と理念			
第 9 回：科挙がもたらした政治的影響			
第 10 回：科挙がもたらした思想的影響			
第 11 回：科挙がもたらした社会的影響			
第 12 回：科挙の隆盛と宗族の形成			
第 13 回：宗族と中国社会			
第 14 回：科挙の終焉			
第 15 回：まとめ			

<b>定期試験</b> 課題レポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業で配付する史資料プリントを授業前後に熟読し、不明な用語についてはあらかじめ調べておくこと（毎回3時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 講義中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 月曜日の4時限（14:45～16:15）
<b>連絡先</b> suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 一部、演習形式もとりにいる。

アジア社会史特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3335	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	鈴木 真		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%, 課題レポート 50%		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回：講義概要 第 2 回：大清帝国の誕生 第 3 回：旗人と民人 第 4 回：辮髪と科挙 第 5 回：江南社会と「南巡」 第 6 回：大清における思想統制 第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間） 第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間） 第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 10 回：旗人と翻訳科挙 第 11 回：満洲旗人と文学 第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』 第 13 回：科挙と『儒林外史』 第 14 回：官僚と『官場現形記』 第 15 回：まとめ			

<b>定期試験</b> 課題レポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業で配付する史資料プリントを授業前後に熟読し、不明な用語についてはあらかじめ調べておくこと（毎回3時間程度）。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 講義中に指示する。
<b>オフィスアワー</b> 月曜日の4時限（14:45～16:15）
<b>連絡先</b> suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 一部、演習形式もとりにれる。

ヨーロッパ社会史特論I		単位数	2単位
授業コード	M3340	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	轟木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史。		
本授業の概要			
古代ギリシア・ローマ社会について道徳の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	報告 80%		1
2	レポート 20%		1
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回	道徳の歴史のための導入		
第 2 回	古代ギリシア社会についての概説		
第 3 回	古代ギリシアの自己と性；自己		
第 4 回	古代ギリシアの自己と性；身体		
第 5 回	古代ギリシアの自己と性；女性		
第 6 回	古代ギリシアの自己と性；少年愛		
第 7 回	古代ギリシアの自己と性；プラトン		
第 8 回	古代ギリシアの自己と性；まとめ		
第 9 回	古代ローマ社会についての概説		
第 10 回	古代ローマの自己と性；自己		
第 11 回	古代ローマの自己と性；身体		
第 12 回	古代ローマの自己と性；女性		
第 13 回	古代ローマの自己と性；少年愛		
第 14 回	古代ローマの自己と性；ストア派		
第 15 回	古代ローマの自己と性；まとめ		

定期試験 レポート。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 報告の準備およびテキスト読解、およびその内容の復習に毎回2時間程度。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 参考文献等については授業中に配布する。
オフィスアワー 授業時間内に指示する。
連絡先 ktodoroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ある程度演習形式を取り入れる。



ヨーロッパ社会史特論II		単位数	2単位
授業コード	M3345	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	森木 広太郎		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史。		
本授業の概要			
古代末期から中世にかけてのキリスト教的な道德の歴史を考える。教義や制度の歴史ではなく、それを貫くようにして人と人との関係がどのように構想・実践されてきたのかを、とくに自己と性という観点から検討する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会史のひとつの分野をどのように構想すればよいかについてヴィジョンを持てるようになる。また、過去の社会と現代の社会との比較の視点を獲得する。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	報告20%		1
2	レポート20%		1
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回 道德の歴史のための導入			
第 2 回 初期キリスト教の自己と性；司牧			
第 3 回 初期キリスト教の自己と性；生殖			
第 4 回 初期キリスト教の自己と性；身体			
第 5 回 初期キリスト教の自己と性；洗礼			
第 6 回 初期キリスト教の自己と性；贖罪			
第 7 回 初期キリスト教の自己と性；修道生活			
第 8 回 初期キリスト教の自己と性；処女			
第 9 回 初期キリスト教の自己と性；結婚			
第 10 回 初期キリスト教の自己と性；アウグスティヌス			
第 11 回 中世の自己と性；贖罪の変遷			
第 12 回 中世の自己と性；結婚			
第 13 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（事件）			
第 14 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（史料）			
第 15 回 中世の自己と性；アベラールとエロイズ（導き）			

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 報告の準備およびテキスト読解、およびその内容の復習に毎回2時間程度。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 参考文献等については授業中に配布する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 ktodoroki@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ある程度演習形式を取り入れる。

日本民俗学特論I		単位数	2単位
授業コード	M3350	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	小嶋 博巳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本民俗学の立脚点を理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	民俗学および関連分野の論文が読解できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。	1/2/3	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1/2/3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民俗学的認識の誕生</li> <li>2. 柳田國男の仕事</li> <li>3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉</li> <li>4. フォークロリズムをめぐる議論</li> <li>5. 民俗宗教とは</li> <li>6. ムラと村落祭祀</li> <li>7. 村組と地縁集団の祭祀</li> <li>8. 宮座と当屋制</li> <li>9. 同族と同族祭祀</li> <li>10. 先祖祭祀</li> <li>11. 年中行事の構造</li> <li>12. 人の一生と靈魂観</li> <li>13. 祭儀と祝祭</li> <li>14. 神がかりとシャーマニズム</li> <li>15. 〈俗信〉という概念</li> </ol>			

<b>定期試験</b> 期末にレポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均1～2時間程度。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考文献>授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
<b>連絡先</b> s4012@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

日本民俗学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3355	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	小嶋 博巳		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
<p>遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	日本の社会における種々の遍歴の実態が説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
2	民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることを理解し、説明できる。	知識・技能/思考・判断・表現力	
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。	1/2	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。	1/2	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 漂泊・遍歴の諸相</li> <li>2. 巡礼という回路</li> <li>3. 巡礼類型論</li> <li>4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼</li> <li>5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗</li> <li>6. 社会的弱者の巡礼</li> <li>7. ハンセン病と巡礼</li> <li>8. 乞食巡礼の民俗</li> <li>9. もの乞いの思想</li> <li>10. 六十六部日本廻国</li> <li>11. 持経者の遍歴と如法経信仰</li> <li>12. 六十六部縁起</li> <li>13. 王権の神話・儀礼と遍歴</li> <li>14. 職業的廻国者集団の活動</li> <li>15. 遍歴と定住の交渉</li> </ol>			

<b>定期試験</b> 期末にレポートを課す。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均1～2時間程度。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> <参考文献>授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
<b>オフィスアワー</b> 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
<b>連絡先</b> s4012@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

考古学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3360	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
縄文、弥生、古墳時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	縄文から古墳時代の考古学事例を通して、日本の古代社会成立のプロセスとその要因について説明できる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回：講義概要 第 2 回：縄文時代の起源とその展開 第 3 回：縄文海進の影響について 第 4 回：三内丸山遺跡の衣食住 第 5 回：縄文時代関連の論文講読 第 6 回：弥生時代の起源とその展開 第 7 回：高地性集落と環濠集落の出現 第 8 回：纏向遺跡の集落構造 第 9 回：弥生時代関連の論文講読 第 10 回：古墳の起源とその展開 第 11 回：前方後円墳とは何か 第 12 回：造山古墳の考古学的位置付け 第 13 回：古代吉備と古代出雲の関係について 第 14 回：古墳時代関連の論文講読 第 15 回：まとめ			

定期試験
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。



考古学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3365	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、都市国家成立のプロセスとその要因について説明できる。		
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%、課題レポート 50%		1
2			
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回：講義概要 第 2 回：西アジアにおける農耕の起源 第 3 回：西アジアにおける牧畜の起源 第 4 回：ギョベックリテペ遺跡のインパクト 第 5 回：新石器時代関連の論文講読 第 6 回：西アジアにおける都市の発生 第 7 回：西アジアにおける交易の複雑化 第 8 回：ウルク遺跡、テル・ブラク遺跡の特徴 第 9 回：都市の起源に関する論文講読 第 10 回：都市国家成立の背景 第 11 回：農耕生産力・鉱物資源の考古学的評価 第 12 回：キュルテペ遺跡の発掘成果①銅石器時代 第 13 回：キュルテペ遺跡の発掘成果②青銅器時代 第 14 回：キュルテペ遺跡に関する論文講読 第 15 回：まとめ			

定期試験
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習I		【単位数】		2単位
授業コード	M3410	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	紺谷 亮一			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会史			
本授業の概要				
日本の縄文時代、弥生時代の著名な遺跡を取り上げ、各遺跡の特徴を概観しながら、日本考古学上の問題にせまる。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)
1	縄文時代、弥生時代の考古学事例を通して、日本の先史時代の特徴について説明できる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%			1
2	課題レポート 50%			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：講義概要				
第 2 回：縄文時代：三内丸山遺跡の発掘調査				
第 3 回：三内丸山遺跡の集落構造				
第 4 回：三内丸山遺跡出土の巨大木造建築群				
第 5 回：論文講読				
第 6 回：弥生時代：吉野ヶ里遺跡の発掘調査				
第 7 回：吉野ヶ里遺跡の環濠				
第 8 回：吉野ヶ里遺跡の墳丘墓				
第 9 回：論文講読				
第 10 回：弥生時代：纏向遺跡の発掘調査				
第 11 回：纏向遺跡の集落構造				
第 12 回：纏向遺跡の掘立柱建築群				
第 13 回：箸墓古墳の存在				
第 14 回：論文講読				
第 15 回：まとめ				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこなし、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習II		【単位数】	2単位
授業コード	M3415	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	紺谷 亮一		
時間割備考			
授業形態(主)	2 演習		
授業形態(副)	1 講義		
担当形態	クラス分け		
研究分野(大学院)	社会史		
本授業の概要			
西アジアの先史時代を中心に取り上げ、各時代の特徴および遺跡を概観しながら、西アジアの考古学上の問題にせまる。			
アクティブラーニングの実施内容		体験学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	西アジアの先史時代の考古学事例を通して、メガサイトおよびメガシティの発生についてその背景を説明できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2			
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	口頭発表 50%		1
2	課題レポート 50%		1
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回：講義概要			
第 2 回：新石器時代：ギョベックリテペ遺跡の発掘調査			
第 3 回：ギョベックリテペの集落構造			
第 4 回：ギョベックリテペ出土の石製彫刻			
第 5 回：論文講読			
第 6 回：銅石器時代：アルスランテペ遺跡の発掘調査			
第 7 回：アルスランテペ遺跡の公共建築群			
第 8 回：アルスランテペ出土の「石棺王墓」			
第 9 回：論文講読			
第 10 回：青銅器時代：キュルテペ遺跡の発掘調査			
第 11 回：キュルテペ遺跡の公共建築群			
第 12 回：キュルテペ遺跡の石製偶像			
第 13 回：キュルテペ遺跡の先史時代			
第 14 回：論文講読			
第 15 回：まとめ			

定期試験
試験のフィードバックの方法 講義中に指示する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にここない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 講義中に指示する。
オフィスアワー 講義中に指示する。
連絡先 kontani@post.ndsu.ac.jp
留意事項 一部、演習形式も取り入れる。

社会史演習I		【単位数】		2単位
授業コード	M3420	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	久野 洋			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会史			
本授業の概要				
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)
1	歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)			1 / 2 / 3
2	発表 (30%)			1 / 2 / 3
3	研究論文 (50%)			1 / 2 / 3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：研究論文とは何か				
第2回：先行研究：文献の収集				
第3回：先行研究：批判的に読む				
第4回：先行研究：不足点と今後の課題				
第5回：研究テーマの設定				
第6回：研究方針の確定				
第7回：調査・分析の方法				
第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる				
第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう				
第10回：史資料調査の実践				
第11回：史資料調査のまとめ				
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析				
第13回：自身の研究が解決すべき課題				
第14回：研究発表と討論				
第15回：研究論文の作成に向けて				
定期試験 なし				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b> 
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 授業中に指示する。
<b>連絡先</b> hisano@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 



社会史演習II		【単位数】		2単位	
授業コード	M3425	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	久野 洋				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技				
担当形態	クラス分け				
研究分野(大学院)	社会史				
本授業の概要					
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 (20%)			1 / 2 / 3	
2	発表 (30%)			1 / 2 / 3	
3	研究論文 (50%)			1 / 2 / 3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし					

<b>定期試験</b>
各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b>
授業中に指示する。
<b>連絡先</b>
hisano@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会史演習I		【単位数】		2単位	
授業コード	M3430	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	鈴木 真				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技				
担当形態	クラス分け				
研究分野(大学院)	社会史				
本授業の概要					
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)		
1	歴史的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。		知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性		
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。		知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性		
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。		知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性		
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	授業時の議論への参加 (20%)		1 / 2 / 3		
2	発表 (30%)		1 / 2 / 3		
3	研究論文 (50%)		1 / 2 / 3		
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回：研究論文とは何か					
第2回：先行研究：文献の収集					
第3回：先行研究：批判的に読む					
第4回：先行研究：不足点と今後の課題					
第5回：研究テーマの設定					
第6回：研究方針の確定					
第7回：調査・分析の方法					
第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる					
第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう					
第10回：史資料調査の実践					
第11回：史資料調査のまとめ					
第12回：先行研究と自身の研究との比較分析					
第13回：自身の研究が解決すべき課題					
第14回：研究発表と討論					
第15回：研究論文の作成に向けて					

<b>定期試験</b>
各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b>
毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b>
各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b>
月曜4限（14:45～16:15）
<b>連絡先</b>
suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会史演習II		【単位数】		2単位
授業コード	M3435	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	鈴木 真			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義 / 3 実験・実習・実技			
担当形態	クラス分け			
研究分野(大学院)	社会史			
本授業の概要				
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
3	上記1・2の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)			1 / 2 / 3
2	発表 (30%)			1 / 2 / 3
3	研究論文 (50%)			1 / 2 / 3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ				

<b>定期試験</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 各クラスの授業で指示する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的におこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 各クラスの授業で指示する。受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択し、その他の資料は授業中に配付する。
<b>オフィスアワー</b> 月曜4限（14:45～16:15）
<b>連絡先</b> suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会史演習I		【単位数】		2単位
授業コード	M3440	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	轟木 広太郎			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	ヨーロッパ社会史。			
本授業の概要				
本授業では、受講生が研究テーマ・研究方針を定め、またそれを実現するために必要な分析手法について学ぶ。それぞれの分野に応じた歴史学の研究テーマを選び、関連する先行研究・史資料を収集し、それらを批判的・客観的に分析するなど、自身の研究を深化させるための訓練をおこない、研究発表・論文作成に向けた準備をおこなう。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	歴史学的な研究テーマの設定を適切におこなうことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	研究に必要な方法論を理解し、史資料の収集・分析を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	先行研究を批判的・客観的に読解することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)			1/2/3
2	発表 (30%)			1/2/3
3	研究論文 (50%)			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：研究論文とは何か 第2回：先行研究：文献の収集 第3回：先行研究：批判的に読む 第4回：先行研究：不足点と今後の課題 第5回：研究テーマの設定 第6回：研究方針の確定 第7回：調査・分析の方法 第8回：史資料調査の実施に向けて：計画を立てる 第9回：史資料調査の実施に向けて：予備調査をおこなう 第10回：史資料調査の実践 第11回：史資料調査のまとめ 第12回：先行研究と自身の研究との比較分析 第13回：自身の研究が解決すべき課題 第14回：研究発表と討論 第15回：研究論文の作成に向けて 定期試験 なし				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこなし、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。
オフィスアワー 授業中に指示する。
連絡先 授業中に指示する。
留意事項



社会史演習II		【単位数】		2単位
授業コード	M3445	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	轟木 広太郎			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	ヨーロッパ社会史。			
本授業の概要				
本授業では、受講者の研究テーマや研究方針、収集・利用した史資料の内容を他者に的確に説明する訓練をおこなうとともに、研究の全体構成を具体化し、論文執筆と研究発表に必要な能力を高める。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	実施した史資料収集や調査の結果をまとめ、適切な方法で分析できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	分析結果を客観的・批判的に検討することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	上記の成果を盛り込み、研究発表・論文執筆がおこなえる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	授業時の議論への参加 (20%)			1/2/3
2	発表 (30%)			1/2/3
3	研究論文 (50%)			1/2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：これまでの振り返りと研究内容の検討・修正 第2回：研究テーマ・研究方針・史資料調査の再確認 第3回：研究論文の執筆：問題の所在と全体構成 第4回：収集した史資料の分析：史料の性格の確認 第5回：収集した史資料の分析：史料批判 第6回：研究テーマを深化させる 第7回：研究論文の執筆：先行研究との差異化 第8回：史資料の分析結果：客観的に再検討する 第9回：史資料の分析結果：どのように論文に用いるか 第10回：研究論文の執筆：論理的な議論とは 第11回：序論の書き方 第12回：結論の書き方 第13回：研究論文の全体構成・論証過程の見直し 第14回：要旨の書き方 第15回：まとめ 定期試験 なし				

<p>定期試験 各授業で指示する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 各授業で指示する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 毎回の授業で使用するテキストや史資料を事前に熟読吟味し、わからない用語や概念については各自調べ、内容への理解を深めて授業中の討論に備える。 また日頃から広く関連書籍や研究論文を読むことによって自らの研究テーマを相対化するとともに、自身の研究に必要な史資料・データ・文献に関しては情報収集・現地調査を継続的にこない、それらの入手や解読・分析に努める。（毎回3時間程度）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 受講生が選択したテーマに沿ってテキスト・論文を選択する。その他の資料は授業中に配付する。</p>
<p>オフィスアワー 授業中に指示する。</p>
<p>連絡先 授業中に指示する。</p>
<p>留意事項</p>

社会言語学特論I		【単位数】		2単位
授業コード	M3510	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。</p> <p>「社会言語学特論I」では、教材として参照する先行研究を精読し、得られた知見を把握するとともに、データの収集・蓄積に関する検討を経て収集と分析に着手する。</p>				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	先行研究を理解し説明できる。		知識・技能	
2	研究が計画できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	研究が実行できる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	分析に着手できる。		主体性	
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%		1/2/3	
2	研究レポート：50%		4	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：ガイダンス 第2回：文献の精読と解説(1)-第1章、第2章- 第3回：文献の精読と解説(2)-第3章- 第4回：文献の精読と解説(3)-第4章第1節- 第5回：文献の精読と解説(4)-第4章第2節、第5章- 第6回：研究計画の検討(1)-調査対象等の検討- 第7回：研究計画の検討(2)-修正案の作成- 第8回：研究計画の検討(3)-確定をめざす- 第9回：予備的調査の結果報告と検討 第10回：データベースの枠組みに関する提案と検討(1) 第11回：データベースの枠組みに関する提案と検討(2)-確定をめざす- 第12回：修正計画による予備的調査結果報告と検討 第13回：本調査着手の結果報告と検討(1) 第14回：本調査の結果報告と検討(1) 第15回：本調査の結果報告と検討(2)				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 尾崎喜光・杉尾瞭子（2015）「校歌の歌詞に関する言語学的研究-倉敷市の公立学校の場合-」（『清心語文』第17号）
オフィスアワー 水曜日2限
連絡先 yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

社会言語学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3515	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	専門関連科目		
本授業の概要			
<p>フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。</p> <p>「社会言語学特論II」では、データの収集・蓄積に関する再検討を経てさらにデータを収集し、最終的な分析を行なう。</p>			
アクティブラーニングの実施内容		調査学習	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	研究が計画できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	研究が実行できる。	知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	分析に着手できる。	思考・判断・表現力/主体性	
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業活動内容：50%	1/2	
2	研究レポート：50%	3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第1回：ガイダンス 第2回：研究の微修正の有無に関する検討 第3回：本調査の結果報告と検討(1) -校種別分析- 第4回：本調査の結果報告と検討(2) -校歌制定年別分析- 第5回：本調査の結果報告と検討(3) -学校設立年別分析- 第6回：本調査の結果報告と検討(4) -地域別分析- 第7回：分析資料(図表)の作成に関する解説 第8回：本調査の結果報告と検討(5) -校種別再分析- 第9回：本調査の結果報告と検討(6) -校歌制定年別再分析- 第10回：本調査の結果報告と検討(7) -学校設立年別再分析- 第11回：本調査の結果報告と検討(8) -地域別再分析- 第12回：総合分析の報告と検討 第13回：総合分析の報告と再検討 第14回：総合分析の報告と検討-レポート作成をめざして- 第15回：総合分析の報告と再検討-レポート作成をめざして-			

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） なし。
必携書・参考書（教科書販売以外） なし。
オフィスアワー 水曜日3限
連絡先 yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

社会文学特論I			【単位数】	2単位
授業コード	M3520	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	綾目 広治			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
大正期から戦前昭和期に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を読む力をつける。		知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会の問題と関わる現代批評、現代思想の問題点が指摘できるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
3	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を批評できるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
4	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を今現在の問題と関連させることができるようになる。		知識・技能/思考・判断・表現力	
5			知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	演習での発表。		1	
2			1/2	
3			1/2/3	
4			1/2/3	
5			1/2/3	
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回、導入 第2回、現代文芸評論概観 第3回、新感覚派の誕生 第4回、目的意識論 第5回、芥川龍之介と志賀直哉 第6回、末期の眼 第7回、冬を越す蕾 第8回、中間のまとめ 第9回、散文精神について 第10回、歴史について 第11回、日本の橋 第12回、日本文化私観 第13回、短歌写生の説 第14回、戦前批評を概観して 第15回、戦後批評へ				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜指示する。
オフィスアワー
連絡先
留意事項 当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。



社会文学特論II		【単位数】		2単位
授業コード	M3525	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	綾目 広治			
時間割備考				
授業形態(主)	2 演習			
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
第I期に続き、日本近代文学の中での代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのかを考察し、さらに広くは現代の社会思想史における観点からの考察もしていく。したがって、この講義は社会的な観点からの現代文学史であり、日本における現代社会思想史についての授業でもある。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。		知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2	社会の問題と関わる現代批評、現代思想の問題点が指摘できるようになる。			
3	社会の問題と関わる現代批評、現代思想を批評できるようになる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	演習での発表。		1	
2			2	
3			1 / 2 / 3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回、導入 第2回、第二の青春 第3回、第二芸術 第4回、逃亡奴隷と仮面紳士 第5回、愛の無常について 第6回、近代主義と民族の問題 第7回、私小説の二律背反 第8回、中間のまとめ 第9回、抒情詩の運命 第10回、すさびからさびへ 第11回、神話の克服 第12回、日本文化の雑種性 第13回、転向論 第14回、想像力について 第15回、まとめ				

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売） テキストはこちらで用意する。
必携書・参考書（教科書販売以外） 適宜指示する。
オフィスアワー 授業の後
連絡先
留意事項 当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読むこと。

文化人類学特論I		【単位数】	2単位
授業コード	M3540	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第1期
担当者氏名	長坂 格		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	1 講義 / 2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	文化人類学 移住研究		
本授業の概要			
本講義では、国際移住現象を、文化人類学の観点から検討する。フィールドワークを方法とする文化人類学では、なぜ人が移動するのかだけでなく、歴史的、社会的、文化的な文脈のなかで人々が地理的移動をどのように経験したのかを問うてきた。この講義では、文化人類学、あるいはその周辺分野における移住研究のなかで提起されてきた概念や分析枠組みを紹介したうえで、イタリア、イギリス、フランス、日本におけるフィリピン系移住者を対象として担当者が収集した調査資料を受講生と共に考察していく。			
アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	現代世界の諸問題への文化人類学的アプローチを習得し、自らが研究上で用いることができるようになる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力	
2	国際移住研究の諸概念を習得し、自らが研究上で用いることができるようになる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力	
3	調査資料の分析方法を学び、自らの研究において活かすことができるようになる。	知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	トピックごとの授業へのコメント (50%)	1	
2	最終レポート (50%)	1 / 2 / 3	
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 インTRODクシヨン：人の移動と文化人類学 2 移民社会としての日本 3 移動とジェンダー：グローバルケアチェーン1 4 移動とジェンダー：グローバルケアチェーン2 5 移動とジェンダー：結婚移住1 6 移動とジェンダー：結婚移住2 7 移動とジェンダー：移住と男性性1 8 移動とジェンダー：移住と男性性2 9 移動とセクシャリティ1 10 移動とセクシャリティ2 11 子供の移動1 12 子供の移動2 13 移動とエッセンシャルワーク1 14 移動とエッセンシャルワーク2 15 受講生によるレポート案発表			

定期試験
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 トピック事に課題文献を提示する。初回の授業が始まる前に、読了しておくこと。課題文献は、Manaba folioにアップロードされる。トピック毎に2時間程度の予習時間を要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー 質問は、授業中、授業後に受け付ける。メールでの質問も可能とする。メールアドレスは授業初回で告知する。
連絡先
留意事項

社会哲学特論I		【単位数】		2単位	
授業コード	M3560	科目ナンバリング		開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)	人間社会論				
本授業の概要					
現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その人間論的、社会哲学的基盤を探求する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表の内容及び授業態度 (50%)			1/2	
2	期末レポート (50%)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
授業計画					
第 1 回：ケアの思想の問題領域について					
第 2 回：ケアの概念について					
第 3 回：現象としてのケア					
第 4 回：知覚と欲求					
第 5 回：意志と行為					
第 6 回：経験の構造					
第 7 回：参加者の発表と討論（ケアの本質）					
第 8 回：受苦の人間学					
第 9 回：ケアと宗教性					
第 10 回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）					
第 11 回：ケアと自己実現（メイヤロフ）					
第 12 回：ライフサイクルとケア（エリクソン）					
第 13 回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）					
第 14 回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）					
第 15 回：総括					

<b>定期試験</b> 期末レポートを提出してもらおう。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 参加者と相談の上決定する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
<b>連絡先</b> sakikawa@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>

社会哲学特論II		単位数	2単位
授業コード	M3565	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	崎川 修		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	人間社会論		
本授業の概要			
現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その人間論的、社会哲学的基盤の上で、ケアが向かう社会的課題としての「喪失と悲嘆」について考察し、それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解し説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	人間社会における実践上の困難の解決について、臨床哲学的視座から考察することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の発表及び授業態度 (50%)		1/2
2	期末レポート (50%)		1/2
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
授業計画			
第 1 回：喪失と悲嘆の人間学			
第 2 回：死の概念と文化			
第 3 回：死生学の展開			
第 4 回：悲嘆のプロセスとその多様性			
第 5 回：グリーフケアの方法論			
第 6 回：終末期ケアとスピリチュアルケア			
第 7 回：参加者の発表と討論（死に向き合う）			
第 8 回：トラウマの人間学			
第 9 回：脳科学とトラウマ			
第 10 回：〈魂〉の哲学			
第 11 回：沈黙の意味論			
第 12 回：身体性と語り			
第 13 回：ケアとナラティブ・コミュニティ			
第 14 回：参加者の発表と討論（スピリチュアルケアの可能性）			
第 15 回：総括			

<b>定期試験</b> 期末レポートを提出してもらおう。
<b>試験のフィードバックの方法</b>
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 予習：事前に指定されたテキストや資料の該当箇所を熟読し、検討事項を整理しておく。（60分） 復習：講義内で指摘された問題点を踏まえてテキストおよび関連資料を確認する。（60分）
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 参加者と相談の上決定する。参考書は適宜紹介する。
<b>オフィスアワー</b> オフィスアワーについては授業内で伝える。また随時メールでの質問、相談を受け付ける。
<b>連絡先</b> sakikawa@m.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b>



社会・地理歴史科教育特論I			単位数	2単位
授業コード	M3570	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	森 泰三			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	専門関連科目			
本授業の概要				
アクティブラーニングをはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要なフィールドワークの指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育のあり方について、演習を交え地理学的視野から考察する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術であるフィールドワークや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、中学校や高等学校において積極的にアクティブラーニングを導入した授業が展開できる能力を習得する。			
2	地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。			
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表(40%)			1/2
2	レポートの内容(40%)			1/2
3	指導技術の習得状況(20%)			1/2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 社会科・地理歴史科指導法の現状と課題				
第2回 アクティブラーニングの指導法と特徴				
第3回 地域調査方法論-巡検学習・地域調査の特徴と課題-				
第4回 巡検学習の実際(1) 地形・農業				
第5回 巡検学習の実際(2) 都市・観光				
第6回 巡検学習の実際(3) 交通・消費活動				
第7回 巡検学習の実際(4) 先史時代・古代・中世の遺構				
第8回 巡検学習の実際(5) 近世の遺構				
第9回 巡検学習の実際(6) 近代-産業遺産を中心に				
第10回 巡検学習の学習指導案作成				
第11回 地域調査の実際(1) 商店街の調査				
第12回 商店街調査結果の分析・発表				
第13回 地域調査の実際(2) 農村地域の調査				
第14回 農村地域調査結果の分析・発表				
第15回 地域調査の学習指導案作成				

<p>定期試験 教材作成などのレポート</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業中に授業課題やレポートについてコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などについて、発展的な理解と実践力を身に付けるための予習・復習に3時間程度を要する。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 木曜日 3 時限</p>
<p>連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 授業時間外に学外でフィールドワークを行う。 中学校教諭および高等学校教諭専修免許状取得希望者が望ましい。</p>

社会・地理歴史科教育特論II		【単位数	2単位
授業コード	M3575	科目ナンバリング	開講年度学期
担当者氏名	森 泰三		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	専門関連科目		
本授業の概要			
ICT（特に地理情報システム）の活用をはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要な地理情報システムを活用した指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育と今日的課題について、演習を交え地理学的視野から考察する。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	社会科・地理歴史科教育における最新の指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科および地理歴史科教育に必要な指導技術である地理情報システムや多様な地図資料を活用した教育方法を考察し、それらを活用した中学校や高等学校における授業が展開		
2	地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。		
3			
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	授業時の発表（40%）	1/2	
2	レポートの内容（40%）	1/2	
3	指導技術の習得状況（20%）	1/2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
第 1 回	ICTを活用した社会科・地理歴史科教育		
第 2 回	地理情報システムの概念と実践方法		
第 3 回	WebGISによる地図作成と分析、指導方法		
第 4 回	地理院地図を活用した地形と防災		
第 5 回	MANDARAを活用した統計地図作成と考察		
第 6 回	アドレスマッチングと立地分析		
第 7 回	歴史地理学と社会科教育（1）城下町の立地、伊能図		
第 8 回	歴史地理学と社会科指導（2）新旧地形図と地域変容、地名と歴史		
第 9 回	社会科教育と地理学（1）学校教育と地域		
第 10 回	社会科教育と地理学（2）地域形成と学校の役割		
第 11 回	社会科教育と地理学（3）人口分布と人口増減、少子高齢化		
第 12 回	社会科教育と地理学（4）大都市圏の構造変容		
第 13 回	社会科教育と地理学（5）地方活性化とまちづくり		
第 14 回	社会科教育と地理学（6）観光の開発と保全		
第 15 回	社会科教育と地域の諸課題		

<p>定期試験 教材作成などのレポート</p>
<p>試験のフィードバックの方法 授業中に授業課題やレポートについてコメントする。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育の課題、方法などについて、発展的な理解と実践力を身に付けるための予習・復習に3時間程度を要する。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説地理歴史編（文部科学省）、そのほか授業時に必要資料を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 火曜日 4 時限</p>
<p>連絡先 tmori@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 コンピュータや地図などを使用した演習を実施する。 中学校教諭および高等学校教諭専修免許状取得希望者が望ましい。</p>

社会福祉学特論I		単位数		2単位
授業コード	M3580	科目ナンバリング	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	杉山 博昭			
時間割備考				
授業形態(主)	1 講義			
授業形態(副)				
担当形態	単独			
研究分野(大学院)	人間社会論			
本授業の概要				
本授業では、日本キリスト教社会事業の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。キリシタン時代から、戦前の動向まで、カトリック・プロテスタントの社会事業実践、社会事業思想、教会の果たした役割などを考察していく。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	近代における、カトリック・プロテスタントの果たしてきた意義を説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力
2	近代社会の発展のなかでの社会事業の意義を理解し現代的意義を説明できる。			思考・判断・表現力/主体性
3	社会事業の歴史を踏まえて、現代の社会福祉を分析できる。			知識・技能/主体性
4				
5				
成績評価の基準				対応する到達目標の番号
1	期末レポートで評価する 50%			1/2
2	討論での発言や授業への取り組みで評価する 50%			3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1	キリスト教社会事業史研究の意義			
2	キリスト教と社会福祉の歴史的構造			
3	キリシタンと慈善事業			
4	近代初期のカトリック慈善 修道会による諸活動について			
5	プロテスタント慈善事業の展開 近代思想と慈善			
6	初期キリスト教慈善事業の思想			
7	キリスト教施設の展開			
8	日清戦争後のキリスト教慈善事業			
9	日露戦争後の感化救済事業とキリスト教 内務省の宗教統制の影響			
10	植民地におけるキリスト教社会事業 台湾、朝鮮、満州でのキリスト教社会事業			
11	大正デモクラシーとキリスト教社会事業			
12	世界恐慌期のキリスト教社会事業の動向 救護法の影響・社会事業の経営問題			
13	キリスト教の社会事業教育 ソーシャルワークの導入と専門教育			
14	戦時下のキリスト教社会事業 戦時下の苦難と、その一方で戦争協力の問題			
15	戦時下のキリスト教社会事業の思想・理論 戦時厚生事業論とキリスト教			

<b>定期試験</b> レポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 社会福祉学特論Ⅱで説明する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 必読書の該当箇所を読み、内容を整理する。授業後は、議論の内容を振り返りまとめる。これにはそれぞれ2~3時間要する。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2014, ミネルヴァ書房
<b>オフィスアワー</b> 火曜 2限
<b>連絡先</b> sugiyama@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。

社会福祉学特論II		【単位数】	2単位
授業コード	M3585	科目ナンバリング	開講年度学期 2023年度第2期
担当者氏名	杉山 博昭		
時間割備考			
授業形態(主)	1 講義		
授業形態(副)			
担当形態	単独		
研究分野(大学院)	人間社会論		
本授業の概要			
本授業では、日本キリスト教社会福祉の第二次大戦後の歴史的展開を見ることで、日本の社会福祉の歴史的特質を把握する。カトリック・プロテスタントの社会福祉実践、社会福祉思想、教会と社会福祉の関係を考察していく。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)
1	福祉国家政策の中でのキリスト教社会福祉の意義を説明することができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
2	各教派の特徴を説明し、それぞれの社会福祉への貢献を議論することができる		知識・技能/主体性
3	今後の社会福祉政策において歴史を踏まえた提言をすることができる。		知識・技能/思考・判断・表現力
4			
5			
成績評価の基準			対応する到達目標の番号
1	期末レポートで評価する 50%		1
2	授業態度・討論への参加状況・発言内容で評価する 50%		2/3
3			
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧			
1 第二次大戦後のキリスト教社会事業 2 人権問題とキリスト教 被差別部落・ハンセン病、障害者などの人権課題への取り組み 3 高度成長期のキリスト教社会福祉 4 カトリック社会福祉の動向 5 社会活動・医療活動の動き 6 福祉改革期のキリスト教社会福祉 介護保険、NPO の広がりについてどう対処したのか 7 阪神・淡路大震災とキリスト教 8 各教派の歩みと福祉実践(1) カトリックの教理と社会福祉の関係 9 各教派の歩みと福祉実践(2) 長老派の神学と社会福祉 組合派がなぜ多くの実践を生んだのか 10 各教派の歩みと福祉実践(3) 聖公会・メソジストの社会福祉の特徴 11 各教派の歩みと福祉実践(4) バプテスト・その他は社会福祉にどう貢献したか 12 キリスト教団体と社会福祉 諸団体の概要と業績 13 キリスト教社会福祉の養成教育 国家資格化のなかでのキリスト教の役割 14 キリスト教社会福祉の課題と展望 15 まとめ-少子高齢化時代におけるキリスト教社会福祉の役割			

<b>定期試験</b> レポートを提出する。
<b>試験のフィードバックの方法</b> 他の授業を活用する。または、個別に研究室に訪してディスカッションすることを歓迎する。
<b>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</b> 必読書の該当箇所を読み、内容を整理する。授業後は、議論の内容を振り返りまとめる。これにはそれぞれ2~3時間要する。
<b>必携書（教科書販売）</b>
<b>必携書・参考書（教科書販売以外）</b> 日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』2012, ミネルヴァ書房
<b>オフィスアワー</b> 火曜 2限
<b>連絡先</b> sugiyama@post.ndsu.ac.jp
<b>留意事項</b> 事前に、次週の講義箇所を伝えるので、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。講義は討論を中心に行う。